

いしづち

愛媛労災病院広報紙第16巻第2号

（通巻第80号）

2017年4月5日発行

発行人：院長 宮内文久

理念

当院は働く人々のために、そして地域の人々のために信頼される医療を目指します

基本方針

1. インフォームドコンセントの実践
2. 安全かつ良質な医療の提供
3. 勤労者医療の推進

当院では、医の倫理と病院の理念に基づいた医療を積極的に推進していくため、患者さんの基本的な『権利と責務』を、以下のように宣言します。

【患者さんの権利】

- 1) 人としての尊厳を保ちながら、良質の医療を受ける権利
- 2) 十分な説明と情報提供を受け、自らの意思で治療法の決定やセカンドオピニオンを希望する権利
- 3) 個人に関するプライバシーを保護される権利

【患者さんの責務】

- 4) 疾病や医療を理解するよう努力する義務
- 5) 医療に積極的に取り組む義務
- 6) 快適な医療環境づくりに協力する義務

第3回 市民公開講座を開催しました

詳細記事は、4頁に掲載しています。



宮内院長挨拶



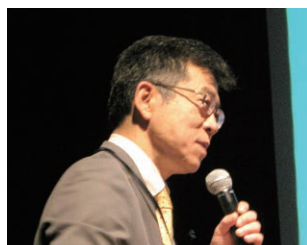
新居浜市石川勝行市長挨拶



第II部 ディスカッションの様子



福井脳神経外科部長講演



木戸副院長講演



ロコモ体操風景

新しい心血管撮影装置での冠動脈治療	2
高感度トロポニン定量検査はじめました	3
北4階病棟紹介	3

第3回 市民公開講座を開催しました	4
新規採用ドクターの紹介	4

新しい心血管撮影装置での冠動脈治療 ～ Stent Viewを使用して～

循環器内科部長 佐藤 晃

1月号で中央放射線部長が紹介したように、昨年11月末から新しいアンギオ装置が稼働しています。特長についても既にご案内しましたが、その中でもStent View機能はステントの視認性を高めるために有用です。ステントバルーンの二つのマーカーを目印にして8心拍を加算する事で、ステントが止まって見えて確認し易くなり、ステントとステント、あるいはステントとバルーン的位置関係がよく分かるようになります。他社製でも似た機能が採用されている機種もありましたが、撮像してから画像が得られるのに少し時間がかかっていました。今回当院で稼働し始めた島津社製では撮像時とほぼリアルタイムで画像を得る事が出来ます。そのため、撮像しながらバルーンカテーテルの位置を徐々に移動してぴったり合わせる事も可能です。またバルーンカテーテル以外にも二つのマーカーをもつカテーテルなら強調してその位置を確認し易くなります。

またStent View機能以外に、バルーン拡張中の記録を撮影より被ばく線量が1/10の透視保存でできるようになり、以前の装置より全体の被ばく線量も減らせています。

右に実際の画像を呈示します。症例は狭心症の59歳の男性です。図1では枝の分岐部の手前だけ拡張するための位置決め時、図2はその分岐部でのバルーンの同時拡張前の位置決め時、図3は同時拡張時です。写真の画像が撮影と同時にモニターに表示されて、ステントとバルーンカテーテルの位置関係がはっきりと分かります。このソフトを使用して治療する事でステント留置を安全確実に実施する事が出来ます。治療成績の向上にもつながるため、当院で治療を受けられる患者様にとって大きなメリットになります。今後も積極的に使用して治療を行っていきますので、患者様の御受診や御紹介をお待ちしております。宜しくお願いします。

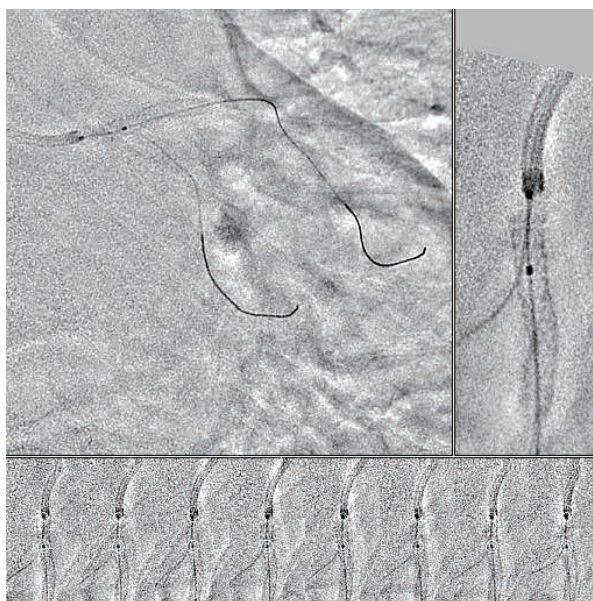


図1

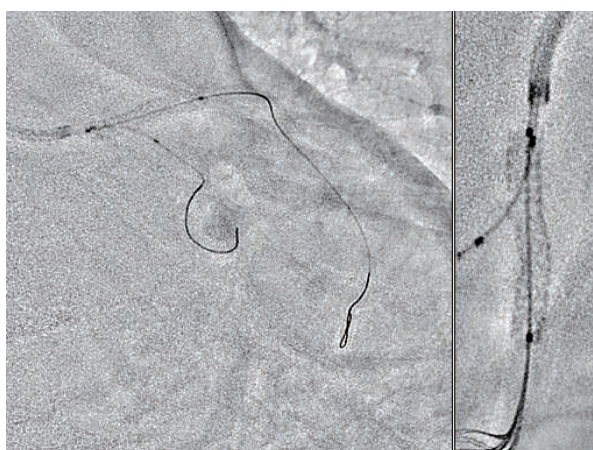


図2

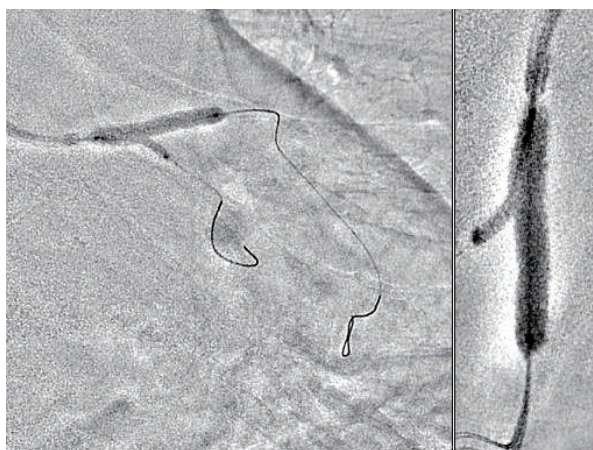


図3

高感度トロポニンI 定量検査はじめました

主任臨床検査技師 高橋直樹



当院では、アボット社製アーキテクトi1000SRという測定機を用いて免疫学的検査を行っています。この測定機は、厚生労働省の感染症検査の標準機として採用されるなど、正確度の高い機器です。免疫学的検査とは、CEA・PSAなどの腫瘍マ

ーカー、甲状腺ホルモン・インスリンなどの内分泌項目、肝炎ウイルスやHIVなどの感染症項目、BNPなどの心筋マーカーなど多量の重要な検査です。

このたびアーキテクトi1000SRを用いて、高感度トロポニンIという項目を測定することになりました。トロポニンIは心筋梗塞など心臓の筋肉が障害を受けると血液中出现しその障害の程度と経過時間により上昇します。従来当院で行っていたトロポニンT定性検査は発症後約4時間、CK-MBは約6時間程度たたないと陽性とならないのに対し、高感度トロポニンIは約2時間で陽性となるとの報告があります。治療に1分・1秒を争う心筋梗塞の診断において非常に有用な項目だと考えています。

北4階病棟紹介

北4階病棟看護師長 日野美保

北4階病棟は、産婦人科、整形外科、小児科（新生児）の混合病棟で、院内唯一の女性病棟です。周産期、周術期（産婦人科、整形外科）、化学療法、終末期など入院患者様の年齢や治療目的は多岐にわたります。

スタッフは助産師10名、看護師16名の2職種で構成されており、助産師チームが主に産科・新生児を、看護師チームが婦人科・整形外科を担当しています。

助産師チームは、安全なお産だけでなく、産後のお母様方の心と体の癒しのために足浴・背部温電法など産後ケアにも力を注いでいます。また、助産外来や母乳相談、中学校での性教育講演など専門性を発揮しその活動を院外にも拡大しています。

看護師チームは、がん化学療法認定看護師を中心に、患者様が安全・安楽に化学療法を受けられるように、また、がん治療のどのステージであっても患者様と家族の気持ちに寄り添い希望す

る場所で療養ができるよう支援しています。更には、がん患者様が安心して在宅療養ができるよう、在宅患者訪問看護の体制も整えています。整形外科においては、学習会を重ね、当病棟で受け入れ可能な疾患の拡大をはかりました。

このようにそれぞれのチームが色々な事に取り組んでいるのも職種を超えたチームワークの良さがあるからです。これからも、スタッフ一丸となって頑張っていきます。



第3回市民公開講座を開催しました

総務課 久次 真生

「もし、あなたやご家族に介護が必要となったとき、どのような行動をとりますか？

また、その時のことを想像したことはありますか？」

今回の市民公開講座は、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるためにはどうしたらよいのかを市民の皆さんと共に考えていく場とするため、「地域の医療・介護を考える」をテーマとして開催しました。

まず、第Ⅰ部講演では、要介護状態になる原因のひとつとされる脳卒中についての講演を福井脳神経外科部長が行いました。

脳の病気といえば死に直結するといったイメージが大きいと思いますが、現在は医療技術の進歩や新薬の開発により、その人にあった治療や薬を医師が提供することで、脳卒中になっても健康な状態に回復し退院していく患者さんもいることが分かりました。

次に、要介護になるリスクの高い状態を表す運動器症候群（ロコモティブシンドローム：通称ロコモ）について、木戸副院長が講演しました。

ご来場いただいた皆さんはご存知の方が多かったのですが、世間でのロコモの認知度は50%に満たないそうです。講演の中で、メタボとロコモの比較についてのお話があり、メタボは内臓（心臓・血管・肝臓・腎臓）系の疾患を発症し後々寿命に関わる、ロコモは運動器（骨・関節・筋肉・神経）系の疾患を発症し後々健康寿命に関わるとのお話が印象的でした。

続いて、大久保理学療法士を講師として、ご来場いただいた皆さんと一緒にロコモ体操を実施しました。近年は健康志向の方が多く、ウォーキングをされている方も多いと聞きますが、ただ歩くだけでは筋力にはつかないそうです。歩き方のコツや、1日あたりの活動量と病気の関係を知ったうえで、ウォーキングをすることで効果が見込めます。会場にお越しいただいた石川市長もロコモ体操にご参加い

ただき、帰路では早速ウォーキングに挑戦されていたのが印象的でした。

第Ⅱ部講演では、Ⅰ部で予防についての講演を行いました。もし介護が必要な状態となってしまったときに、どんな支援を受けることができ、どのような行動を取ればよいのかについて、新居浜市地域包括支援センターより古川哲久所長、新居浜市介護支援専門員連絡協議会より岸治代会長をパネリストとしてお迎えし、当院の田中医療ソーシャルワーカーと座長である小尻総務課長を含む4名でディスカッションを行いました。

ディスカッションで印象に残ったのは、介護についての相談者は家族が多く、実際に困っているのも家族なので、家族目線の介護支援になってしまう傾向にあるということです。行政や医療関係者は本人の気持ちを想像すること、そして、ご本人は元気なうちにメッセージを残しておくこと、介護をする家族はその方の趣味や口癖を把握しておくことが大切というお話があり、様々な立場での連携・助け合いが必要だと実感しました。

また、押えておきたいポイントとして、動ける人が動くことです。申請制度は分からないことでも担当窓口に聞いていけば、結論に辿り着くようになっていきます。もし、ご家族や周りの方で介護が必要な状態になってお困りの際は、まずは市役所へ相談してみましょう。

今回は雪が降る中での開催となりましたが、多くの市民の皆さんにご参加いただき、大変有意義な市民公開講座となりました。今回の市民公開講座開催にあたり、共催をいただきました新居浜市及び講演いただいた皆様には深く感謝申し上げます。

また、ご好評により、今年度第4回も実施することが決まりました。地域に根付いた病院を目指して、市民の皆さんと共に考える場を提供していきたいと考えておりますので、皆さんのご来場を愛媛労災病院スタッフ一同お待ちしております。

新規採用ドクターの紹介



八木 隆治 先生

診療科：外科
経験年数：15年
趣味：マラソン

自己紹介：5年ぶりに労災病院で働く機会をいただきました。

外科は2人体制での診療体制となることから地域の皆様には不便をおかけするとは思いますが、よろしく願いいたします。



瀬戸 哲也 先生

診療科：整形外科
経験年数：3年
専門分野：外傷一般
趣味：スノーボード、ゴルフ

自己紹介：運動器の病気を主に診察しています。遠慮なく外来に来てください。

関節の疼痛、腰痛、しびれ等でお困りの症状がありましたら、一度ご相談ください。

新居浜の地域医療に貢献できるように頑張っております。

広報誌編集メンバー 委員長：福井脳神経外科部長 委員：木戸副院長、山田医局長、日野看護部長、和田看護部長補佐、加地看護師、大成薬剤師、小川作業療法士、正岡診療放射線技師、豊島臨床検査技師、今村管理栄養士、小尻総務課長、岸上総務課員、中山診療情報管理士、久次総務課員